

スリランカ 社会の変化に対応できるか

すが つとむ
須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

先日1年半ぶりにスリランカを訪れた。前回訪問時はようやく発展段階がスタートしたという感じであったが、この1年半でかなり様相に変化が出てきている。スリランカの最新事情をアップデートしてみたい。

発展するコロombo

スリランカ最大都市であるコロomboの国際空港は街から24kmほど離れており、前は昔ながらの道しかなく、時間が読めないということで早めにホテルを出た記憶がある。だが今回は空港専用道路が出来ており、市内に入るまではきれいな海岸線を見ながらかなりスムーズに進むことが出来た。ただ朝夕を中心に市内の渋滞は相当ひどくなっており、空港近くの家から市の南側へ通勤するというスリランカ人は『1日往復で最低4時間以上は車の中だよ』と半ばあきれ顔で話す。因みに車の多くは日本車、以前は中古車が殆どだったが、最近はきれいな車が少しずつ増えている。

知り合いのスリランカ人は前回ドイツ車に乗っていたが、先日日本車に買い替えた。一番の理由は

『車が故障した時に部品の調達
が楽だから』
というもの。日本車の集積度が高いため、パーツも容易に手に入るとい
う。一定



写真1 きれいになったコロombo空港

以上の市場シェアを押さえる、ということが途上国では如何に重要かがこれを見ても分かる。

そういえば前回家電では韓国

のLGがかなりのシェアを確保していて驚いたが、サムソンは殆ど見られなかった。さすがのサムソンでも参入しないほど小さな市場、という認識でいたが、今回は急速な携帯電話の普及に対応しているサムソンを目にした。携帯を持つ人が劇的に増えており、外国人観光客でもSIMカードを入手すれば簡単に電話が使えるようになっていた。そして前回苦労したWiFiもホテルは勿論、ちょっとしたカフェにも普及し、この分野でも他のアジア諸国に近づいてきている印象を受けた。

外国人観光客の誘致は1つの目玉政策だが、ホテルの不足が深刻、料金もかなり高いイメージがあった。こちらも少しずつ改善され、外国人が安く泊まれるゲストハウスや部屋貸スタイルの宿泊施設なども出来ていた。現在コロomboの一等地に高級大型ホテルの建設が進んでおり、近々様変わりする可能性が大きい。

問題山積の企業経営

そんな中である中小企業を訪ねたところ、意外な話に驚いた。その会社はコロombo郊外で20名程度を



写真2 コロomboのお洒落なカフェ



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



雇用しているのだが、その責任者によれば『ここ2-3年、賃金は毎年20%以上上昇している。原材料の調達コストはそれ以上に上がっている』ということらしい。そして『商品の輸出先であるドイツからは5年後にはスリランカでの生産を止め、ドイツに移すという話も出ている』というのだ。人件費や物価の上昇などは他のアジア諸国でも同じようにみられる状況。いくらヨーロッパの失業率が高いと言っても、スリランカから移すというのは特殊な例かとも思ったが、どうやら問題はコスト面だけではないらしい。

スリランカで商売をする、商品を輸出する場合、役所の手続きなどが大変面倒で、その上汚職が氾濫しており、その対応にコストと時間が大いにかかるらしい。大規模労働集約型産業ならそうもいかないだろうが、小規模企業ならその煩わしさを考えれば国外移設も視野に入るといふ。

また人材そのものの問題もある。元々人口が2000万人と小規模であり、かつ26年にも及ぶ内戦の影響もあり、優秀な人材が多いとは言えない。更には優秀な人材はスリランカ国外への出稼ぎ、そして移住を選択する傾向にあり、単純労働から脱却するのが難しいのでは、との話もあった。

疲弊する一般市民

内戦終結後、急速に変化する社会情勢。一般市民はその対応に戸惑いを隠せない。現地でも知り合ったスリランカ人は『昔はのんびりしていてよかった。だが今は違う。物価はどんどん上がり、給与は上がらない。1つの仕事をしていても食べていけないので、夜にもう1つの仕事する人などザラにいる』と

いうのだ。

『仕事にすごいプレッシャーを感じる』という人もいた。そしてうつ病になる人が急激に増えているとも聞いた。有名大学のカウンセラーは『社会が急激に発展しそのスピードに付いていけない人が多い』と指摘する。そして『社会が発展しているのに、そのメリットを享受できていない人がうつになる』とも。何故発展のメリットを享受できないのか。ある大学教授に聞くと『ズバリ政府官僚、役人がそのメリットを一手に享受している』からであり、『一般市民は搾取の対象になっている』とまで言う。

既に述べたようにスリランカでは人件費は毎年20%程度上がっているはずだ。それなのにメリットが享受できないとはどういうことか。説明では『給与以上に生活コストが上がっている』ということになる。人件費が上がれば物の値段も上がるのは当然だが、税金が高いとの指摘もある。日本の消費税に当たる付加価値税は既に12%。この吸い上げた税金が何に使われているのか。そして商売などをしようとしても賄賂の要求が厳しく、このコストがまたバカにならない。

スリランカの大学生の夢は『海外に移住するか、何でもいから公務員になること』だそうだ。公務員になるのは当然簡単ではなく、職に就けない若者は相当数に上る。これがまた海外移住に拍車をかけるのだが、最近では中国人移住者の急増で、どこの国も簡単に移住を認めない。優秀な人材が行き場を失ってうつ病になったとの話も出てきている。

一見のんびりした南の島国、スリランカ。だが現実には80年代の中国を見るように混沌としており、発展の階段を上るハードルは意外と高い。